

浜風会/入会募集中
毎月第1,3木曜日

篠原地区歴史同好会/浜風会会報 No.29

篠原地区婦人会の歴史

歴史ある篠原の婦人は「篠原地区自治会婦人会」として、平成22年3月をもって幕を閉じた。昭和12年の発足以来、時代時代において重要な役割を果たしてきた婦人会について、表面的ではあるが整理してみた。

戦前の婦人会

婦人会は国の政策で、生活改善推進や婦人解放運動への牽制を目的に地域単位で結成されたが、篠原でも昭和12年に結成された。そして即、国防婦人会篠原村分会が組織され恤兵、慰問、修養等TV等で見られる戦時中の役割を果たしてきた。全国的には複数団体の対立もあり、昭和16年全ての婦人会が、大日本婦人会に統合されたのを受け、昭和17年大日本婦人会篠原支部が結成された。しかし戦時中末期には本土防衛上の非常事態で解散した。

戦後は昭和27年から新しいスタート

戦後の混乱期からようやく落ち着いてきた頃、親睦と隣保扶助を目的にした日本の伝統的住民組織、同一地域に住んでいる女性の団体としての婦人会組織が結成された。全国各地婦人団体連絡協議会が結成された27年、篠原村婦人会も同年4月、新しいスタートを切った。(下表参照)

歴代の婦人会長 (篠原村誌統編/同増補篇/鈴木京子氏資料より)

年(度)	会長名	備考
昭和12年2月	伊藤喜作*	篠原村婦人会発足(*村長)
12年~17年	柳本満子	大日本国防婦人会篠原村分会
17年~19年	柳本満子	大日本婦人会篠原村婦人会
20年3月	—	同 婦人会解散
27年~37年	鈴木咲子	篠原村婦人会→ (昭和36年浜松市へ合併) 浜松市篠原地区婦人会
38年~46年	鈴木かい	
47年~50年	鈴木ふね	
51年~54年	鈴木ふみ	
55年~56年	榊原禮子	
57年~58年	刑部八千代	特筆事項 会長の鈴木咲子さんには、昭和33年、静岡県婦人団体連絡会より、地域婦人団体の育成、婦人の向上等の功績に対し、感謝状が贈られている。
59年~60年	山下ちづ子	
61年~62年	山下百合子	
63年~平成5年	山崎智子	篠原地区自治会婦人会 以降は単位自治会の中で参画している。
平成6年~11年	鈴木文子	
12年~15年	中村貞江	
16年~22年3月	鈴木京子	

婦人会の主な活動内容

代表して二例から紹介する。(篠原村誌増補篇と元婦人会長鈴木京子氏の資料を参照した)

1. 戦後の婦人会再開当時の活動(昭和27年)

- 新生活運動の推進
 - ① 栄養知識を伴う料理講習
 - ② 清潔法の村内実践(村、青年団と連携)
 - 蚊、のみ、蠅の撲滅のための一斉消毒
- 婦人の教養を高める活動
 - 華道等
 - 篠原地区たこ揚げ会
 - 篠原商工会篠原地区夏祭り
 - 篠原地区社会福祉協議会

2. 解散当時の活動(平成21年)

- 自治会関係
 - ① 篠原婦人自主防災隊/放水や救命訓練
 - ② 敬老会の運営
 - ③ 赤十字社費募集・集金/古切手収集
 - ④ 自治会行事、関係団体への参加協力
 - 青少年健全育成会
 - 教養講座(月一回)
 - 華道
 - 茶道
 - その他
 - 貸し衣裳
 - 親睦旅行
- まとめ
忘れられないのは地区体育大会で、運動場いっぱい広がるのでの婦人会員全員でのフォークダンス。そんな雰囲気。今後共残していきたいものだ。(山下勝彦)

土地改良の歴史

篠原地区の現在ある土地の形態はいくつか、このように変わったのか。劇的に変わったのに案外知らない人が多い。そこでその経過と土地改良した意義についてまとめてみた。

二つある土地改良事業の内、県道北の「坪井馬郡土地改良区」については、今回は触れない。「篠原村舞阪町南部土地改良区」設立

この土地の改良事業は、昭和34年2月27日付けで「土地改良設立認可申請書」が静岡県知事、斎藤寿夫あて規定による書類を添えて申請されたのが正式のスタートである。そしてそれは同年5月19日に認可され、「篠原村舞阪町南部土地改良区」が設立したのである。

土地改良への契機は国道の改修から

この土地改良事業は、昭和24年6月に施行された土地改良法により、全国的に展開されていた国土基盤整備、開発事業である。

そんな中、篠原地区にはそれ以上に差し迫った課題があった。それを端的に表現されている静岡新聞昭和33年1月13日の記事より「東海道国道における“陸の玄界灘”とまでいわれ、天気の良い日は文字通り黄塵万丈で面側の民家を襲い、年中中雨戸もあけられず、雨の日は自動車か泥をはね上げ全くの交通地獄とされている篠原村市内の国道」その改修と拡張を行うことである。建設省は可美村高塚から南に出て篠原国道に沿って西進し、舞阪駅前の国道(旧

国道)に合流させる延長五、五六〇m、巾13mの構想を立てていた。ところが、舞阪町市内の東海道1kmにわたる松並木の伐採に対する猛反対がおきた。このため建設省はやむをえず、現在あるルートに変更されたのであった。



昭和57年3月に立てられた竣工記念碑

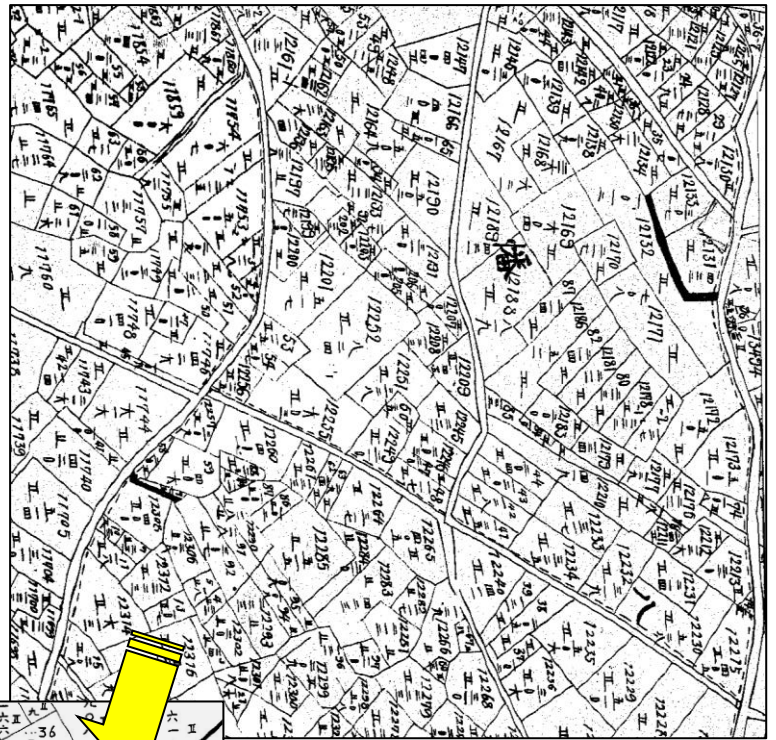
もともと国道建設と土地改良は全く関係ないことであるが、国道建設の早期建設のために、農地の区画整理が先行して確定していなければならぬ。

合わせ国営の三方原用水事業が始まっており、それをひき込むためにも、確定した土地区画が必要であった等、この土地改良が早期に進展した理由であり、舞阪町との連携も果たせた土地改良区の認可までの手続き

申請人代表として鈴木芳蔵氏が選ばれ、設立認可申請書には、左記の書類が添付されている。

- ① 定款及び規約案
- ② 土地改良事業計画書
- ③ 公告した事項を記載した書面
- ・ 公告書
- ④ 同意を証する書面
- ⑤ 事業費の細目及び資金計画
- ⑥ 第一回総会までの役員選任調査等

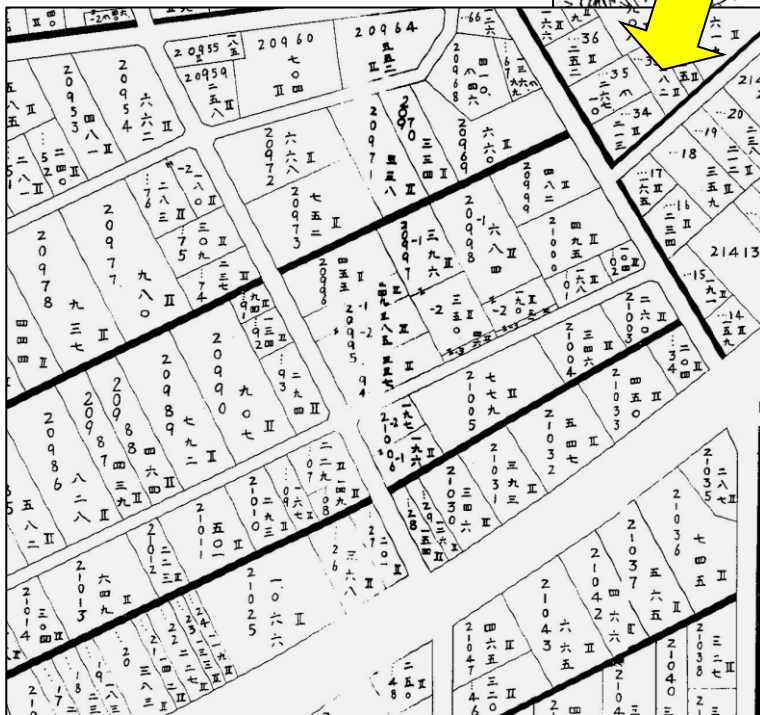
『舞阪町史下巻』によれば、昭和33年3月27日に篠原村の農協組合長、助役、議長等五名が舞阪町を訪ね、国道1号線新設問題と合わせ土地改良事業の共同実施の打合せが記録されている。これをきっかけに急ピッチで歩調を合わせ、組合員となるべき人の同意を得るよう尽力されたことだろう。特に34年度事業へのせめためには、33年9月までに「これら書類の整備が求められていた。この短期間にゆくまどめられたものだと感じる。住民のこの事業への期待がいかに大きかったかを物語っている。



土地改良の成果（土地改良の意義）

右の下の地図は昭和8年発行と昭和51年発行の「土地宝典」からの引用で、土地改良前後の差が一目瞭然である。特に以前の土地の姿を注目してほしい。これは篠原東の東八幡、西八幡の前当りであるが、地番も全く新しくなっている。この地域においても同様であろう。

・国道の新設と共に、農地の区画整理、排水路の整備、農道の新設改良、新国道への取付け道路の新設等、この地域の地勢を大きく変えた。



- ・トラクター等農業機械が自由に使えるようになった。農作業の効率が飛躍的に向上した。
- ・三方原用水が使えるようになり、農作物の質量共の改善が図られた。
- ・農業の担い手への農地利用集積が図られ、玉葱産地の維持が可能になった。
- ・農地の転用が容易になり、宅地化や商業、工業、公共施設等土地活用の道が開け、地域の発展に寄与している。

篠原村舞阪町南部土地改良区のみとめ

- ・換地のことや、資金計画等幾多の問題については割愛し、竣工記念碑よりのまことに留める。
- ・土地改良区設立 昭和34年3月19日
- ・区画整理事業完了 昭和47年3月31日
- ・工事着工 昭和46年1月26日
- ・工事完了 昭和57年3月21日
- ・総面積 295.2 ha
- ・組合員数 1042人
- ・総事業費 17億1千万円

なお工事完了後も、三方原水受益団体として、今尚存続している。

歴代の理事長（敬称略）

- 最後にこの大事業を導いていただいた歴代理事長を列挙する。
- 昭和34～54年 鈴木光次
- 昭和54～平成11年 鈴木進午
- 平成11～15年 那須田 進
- 平成15年 鈴木久雄
- 平成15年～19年 那須田謹司
- 平成19年 鈴木敏彦
- 平成19～23年 山下政利
- 平成23～27年 鈴木計一
- 平成27年～ 榎原政博

（山下勝彦）

歴史メモ18

祇園さん

7月14日は祇園です。最近では地域の人が出やすい日に変わっている所もありますが、篠原地区でも八阪神社や、津島神社が祀られている何か所かのお堂で、お祭りが行われています。

東馬郡の津島様のお堂は観音堂跡にあり、7月14日夕方、県道からの路地の角に立てられた灯籠に火が入り、お堂の前の列にした数多くの燈明も一斉にともされる。近所の人たちが三々五々来て無病息災を祈り、ひと時の歓談の場となっています。

少し前までは、夏祭りとして子供たちの楽しみの日でもありました。(鈴木 忠)



東馬郡の津島様

浜風会会報第29号
篠原協働センター同好会「浜風会」
(篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)
編集委員 委員長 山下勝彦
鈴木幹久 鈴木忠 藤田博辞
発行責任者 山下勝彦
発行平成28年7月1日
連絡先：浜松市篠原協働センター 気付



東海の三三尾瀬
葦毛湿原

葦毛湿原ってご存知でしょうか。豊橋市岩崎にある湿原です。三張山系の広さ5万㎡のなだらかな傾斜地にあり、俗世間から離れた所です。私が知ったのは昭和50年頃、夏、友達と訪ねました。枕木の遊歩道を歩くと、両側にモウセンゴケがびっしり生え、ハッチョウトンボが飛びかっています。自然いっぱいこのこんな所が都会の近くによく残っていたなと驚きました。

葦毛の名は源頼朝伝説に由来します。頼朝の乗った葦毛の馬は、厳しい山越えのためかにかに苦しみ出し、死んでしまいました。その亡骸を葬ったのがこの地です。そして葦毛と名が付いたそうです。

モウセンゴケは知ってのとおり食虫植物です。他に黄色の可愛い花が咲くミミカキグサもたくさんあります。これも食虫植物です。私の

好きな湿原植物は他に、シラタマホシクサがあります。直径1cm程の真っ白な球形の花を咲かせます。これが9月の湿原に群生するのは、見事なものです。ハッチョウトンボは日本最小のトンボで全長1.5cm程です。数が少なく現在のこの湿原では絶滅したとも言われています。あれから40年、葦毛湿原には何度も訪れました。その間、新聞や雑誌でたびたび紹介されるようになりました。訪れる人が増えるに従い、駐車場、ベンチ、歩道、案内板などが整備されるようになりました。しかしその分、少しずつ風情が失われていったように感じました。自然を守るためには仕方がないのでしょうか。皆さん、葦毛湿原に行かれた方は多いと思いますが、まだの方は地図を片手に湿原を散策されてはいかがでしょうか。しばしの癒しを体験して下さい。(鈴木幹久)